

C-28 各種洋裁原型の比較に関する要旨について(第1報)
京都府立大短大 福本慶子 滋賀県立短大 ○小原順子

目的 各種の洋裁原型を被服製作過程で使用する時、採寸・仮縫・補正等の工程を経て、造形的(デザイン)に意図した結果が得られている。しかしそれとは異なった立場、すなわち教育の目的のために、それぞれの原型が人体をどうとらえて製図化しているかを理解することは、重要な課題であると考えられた。又その理解には相互の比較が必要であるが、その場合単なる試着の結果ではなくて、表現にかかわる構造的な要旨があると考えられたので、その考察を試みた。

方法 1. 表現法と表示法について。2. 人体の採寸とそのゆるみについて。3. 原型の胸囲における前後の差について。4. 頸付け根まわりのフィッティングについて。5. 腕付け根まわりと袖ぐり線のフィッティングについて。6. 肩線の設定。

結果 1. 表現法と表示法について区別を明示した。2. 胸囲線に入れた各種原型のゆるみの大小は、その原型の基礎的な性格、すなわちどのようなゆるやかさをもって包まれているかという密着度をあらわすものであって、製図上のゆるみの適不適を論ずるべきものではない。従ってそのゆるみは原型の立体観と反比例するものである。3. 前後の差の大小は、ゆるみの大小に反比例している。4. 頸付け根まわりのフィッティングには、テーラートの技法が認められるものがあり、人体計測値と原型の関係や、原型相互の技法を比較する時注意を要する。5. 袖ぐりのゆるみの入れ方にはそれぞれ差異と特徴がある。6. 肩線は種種に設定されているが、原型としては肩峰点との関係に注意したい。